

# 平成30年度「学校安全総合支援事業」 全国成果発表会

地域へ、全国へ、そして未来につなげる  
熊本県の防災教育



熊本県教育庁教育指導局体育保健課

# 発表内容



- 1 平成28年熊本地震発災後の防災教育の取組について
- 2 平成30年度学校安全総合支援事業について
- 3 熊本県学校支援チームについて



# 平成28年熊本地震 発災後の防災教育 の取組について

がんばるけん!  
くまもとけん!



©2010熊本県くまモン

# 1 平成28年熊本地震発災後の熊本県の防災教育の取組

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
各 取 組	「学校防災マニュアル作成の手引」作成	各学校での防災マニュアルの改訂	各学校での防災マニュアルの随時見直し、点検
	「防災主任」の位置付け検討	県内全公立学校に「防災主任」の位置付け及び防災主任を中心とした学校防災体制の整備	
		「防災主任」を対象とした研修の実施(防災教育・防災管理)	
		「学校防災教育指導の手引」等の熊本地震関連教材の作成	手引等の活用開始
		熊本地震の経験を語り継ぐ仕組みづくり	毎年4月を「くまもと防災教育月間」として位置付け
	防災型コミュニティ・スクール導入の検討	全ての県立学校に「防災型コミュニティ・スクール」の導入 各学校での学校運営協議会の開催	

# 学校防災（地震・津波）マニュアル作成の手引

## 学校防災（地震・津波）マニュアル 作成の手引

### 【備える】

防災対応能力の向上・安全点検・保護者や地域、自治体との連携体制・対策本部の設置・教職員の動員体制・災害発生時に必要となる備品や備蓄

### 【命を守る】

発生場面ごとの対応行動例



### 【立て直す】

引き渡し・安否確認・避難所協力・心のケア  
学校再開に向けて

平成29年3月

熊本県教育委員会

○学校の**防災管理体制**  
**を強化**するために、熊本地震の年に作成  
○学校防災マニュアル等の**作成や改善の視点**  
**を盛り込む**

主な参考文献

- ◆学校防災マニュアル(地震・津波災害)作成の手引き(文部科学省)
- ◆『生きる力』を育む防災教育の展開(文部科学省)
- ◆学校防災マニュアル(兵庫県教育委員会)
- ◆学校防災マニュアル作成ガイド(宮城県教育委員会)
- ◆学校の地震防災対策マニュアル(静岡県教育委員会)

# 手引の内容

- 1 学校防災マニュアルの作成について
- 2 各学校における防災マニュアル作成上の留意点
- 3 学校における地震防災のフローチャート
- 4 事前の危機管理【備える】
- 5 発生時の危機管理【命を守る】
- 6 事後の危機管理【立て直す】
- 7 幼稚園・特別支援学校における防災マニュアル作成上の留意点
- 8 資料編



# 防災主任について

様々な災害から児童生徒の命を守り抜く学校防災体制の強化

校長のリーダーシップのもと組織として学校防災を推進する体制の整備



防災主任

学校防災体制の推進をコーディネートする  
教職員

## 【防災主任の役割】

- ① 学校防災の計画作成に関すること  
(学校安全計画等の見直し・改善 等)
- ② 防災教育の推進に関すること  
(防災教育の授業研究の推進及び防災教育関連資料の提供 等)
- ③ 実践的な避難訓練の計画・実施に関すること  
(緊急地震速報を活用した避難訓練や引き渡し訓練、地域と連携した避難訓練 等)
- ④ 学校防災マニュアルの見直し・改善に関すること  
(学校防災マニュアル見直し・改善のための検討会の実施 等)
- ⑤ 学校防災の研修会に関すること  
(研修会への参加及び校内研修の企画、実施 等)
- ⑥ 学校運営協議会等における学校防災に関すること  
(防災に関する学校運営協議会等への参画 等)
- ⑦ 地域・関係機関等との連絡調整・連携推進に関すること  
(訓練の実施や学校防災マニュアル見直し・改善、災害対応に関する協議 等)
- ⑧ その他、学校防災の推進に関すること

平成29年度  
各公立学校の校務分  
掌へ**防災主任**を位置  
付け

これまでの学校防災の取  
組を整理し、その取組を  
中心となってコーディネート  
する教職員



## 目的

- ◆学校防災教育指導の手引を活用した防災教育の推進
- ◆防災主任の災害対応能力の向上

事業名	防災教育研修会	防災教室講習会
開催日	平成30年5月～6月	平成30年8月2日
会場	県内5地区(【宇城・天草】【芦北・球磨】【阿蘇・菊池】 【上益城・八代】【山鹿・玉名】)	森都心プラザ
内容	①開会行事 13:30～13:40	①開会行事 10:00～10:15
	②行政説明 13:40～14:10	②行政説明 10:15～10:45
	③避難所運営ラーニング演習 14:10～15:00	③研修1「防災ハンドブックについて」(教育センター) 11:00～12:00
	④学校安全計画への位置付けについて 15:10～16:20	④研修2「熊本地震発災時の学校の対応について 被災学校管理職 13:00～14:00
	⑤閉会行事 16:20～16:30	⑤研修3 講演「今後の学校防災の進め方について」 14:15～15:45
		⑥閉会行事
講師など	体育保健課指導主事 教育事務所指導主事	体育保健課指導主事 教育センター指導主事 前益城町立飯野小学校長 柴田 敏博 氏 兵庫県立舞子高校環境防災科 副科長 和田 茂 氏

防災教育の推進

災害対応能力の向上



# 学校防災教育指導の手引について



○学校の防災教育の充実を図るため、昨年度作成し全ての公立学校へ配布

○自助・共助の力を育むための指導展開例を発達段階ごと作成

○実践的避難訓練計画例

# 学校防災教育指導の手引の構成

- 1 熊本地震を語り継ぐ【熊本地震の概要】
- 2 自然災害を学ぶ【メカニズムや災害の歴史】
- 3 いつでもどこでも将来も自分の命を守り抜く(自助)  
【発達段階ごとの指導展開例】
- 4 助け合い 励まし合い 志高く(共助)  
【発達段階ごとの指導展開例】
- 5 実践的避難訓練計画例



## 平成30年度「くまもと防災教育月間」実施要項

熊本県教育委員会

### 1 趣 旨

平成28年熊本地震が発生した4月に児童生徒等を対象に、一連の地震と関連付けた防災教育を行うことは、貴重な経験の風化を防ぐとともに、児童生徒等や保護者、地域住民の防災意識の醸成を図ることにつながる。

については、毎年4月を「くまもと防災教育月間」と位置付け、学校の実態に応じた防災教育の取組を推進する。

### 2 期 間

平成30年4月1日（日）から平成30年4月30日（月）までの1か月間

### 3 主な取組内容

各学校等において、家庭・地域と連携し、以下の例を参考にしながら、熊本地震の経験に重点を置いた防災教育の取組を実施する。

#### (1) 学校での取組例

ア 「学校防災教育指導の手引」や熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」(平成30年3月配付予定)などを活用した防災教育の授業を実施するとともに保護者や地域住民に授業を公開する機会を持つ。

イ 「くまもと・子どもの心の自己回復力」を高める授業展開例を活用した心のケアの授業を実施する。(県立教育センターHP「防災教育 心のサポート授業」参照)

ウ 地域人材やゲストティーチャーを活用した防災講話を実施する。

エ 緊急地震速報音源CDを活用した実践的な避難訓練を実施する。

Kumamoto Prefectural Board of education

## 熊本県教育委員会

教育委員会

教育相談

報道資料

よくある質問

教

[ホーム](#) > [学校安全](#) > [学校安全](#)

### 学校安全

PDF形式で掲載  
13 学校防災(地震・津波)マニュアル作成の手引

14 学校防災教育指導の手引

#### 1 学校安全計画例

[学校安全計画例\(小学校\)](#)

[学校安全計画例\(中学校\)](#)

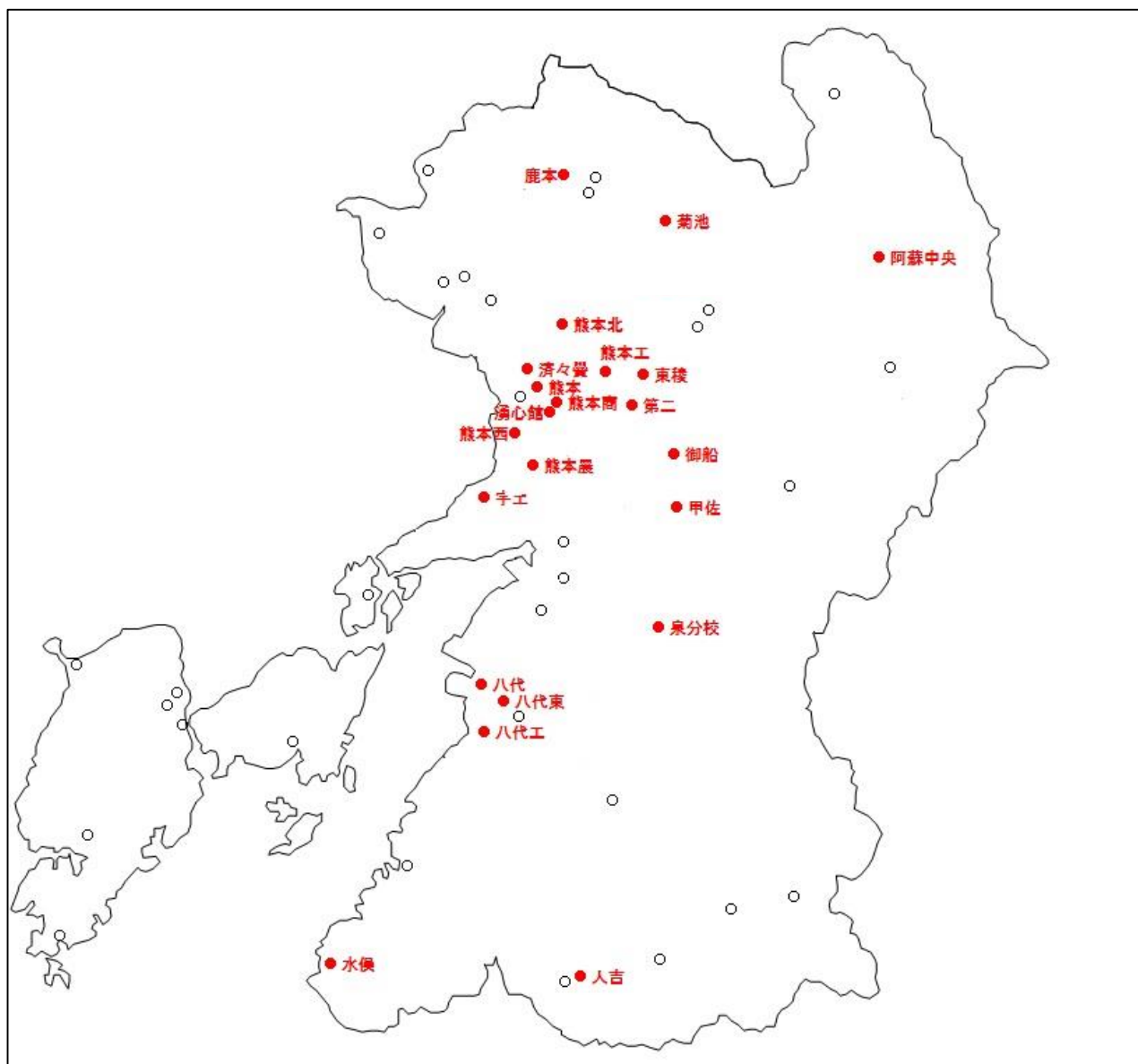
[学校安全計画例\(高等学校\)](#)

[学校安全計画例\(特別支援学校\)](#)

#### 2 学校での事件・事故等発生時の対応マニュアル作成の考え方と具体的対応例

#### 3 学校管理下における児童生徒等の災害発生状況

# 導入の目的と経緯① 避難所になった県立高校



## 【県央】

済々黌	熊本
第二	熊本西
熊本北	東稜
湧心館	熊本商業
熊本工業	熊本農業
御船	甲佐
宇土	

## 【県北】

鹿本	菊池
阿蘇中央	

## 【県南】

泉分校	八代
八代東	八代工業
水俣	人吉

**※22校／54校  
（含む分校）  
※約12,000人が避難**



## 導入の目的と経緯② 地震を通じた課題と対策

### 課題

- 避難所に指定されていない学校にも多くの住民の方が避難
- 教職員も避難所運営に関わらざるを得なかったが、役割を整理しておらず、不明確
- トイレ、空調、備蓄品が不足
- 学校と地域の関係が希薄だった学校では、住民自治による避難所運営への移行が長期化

### 対策

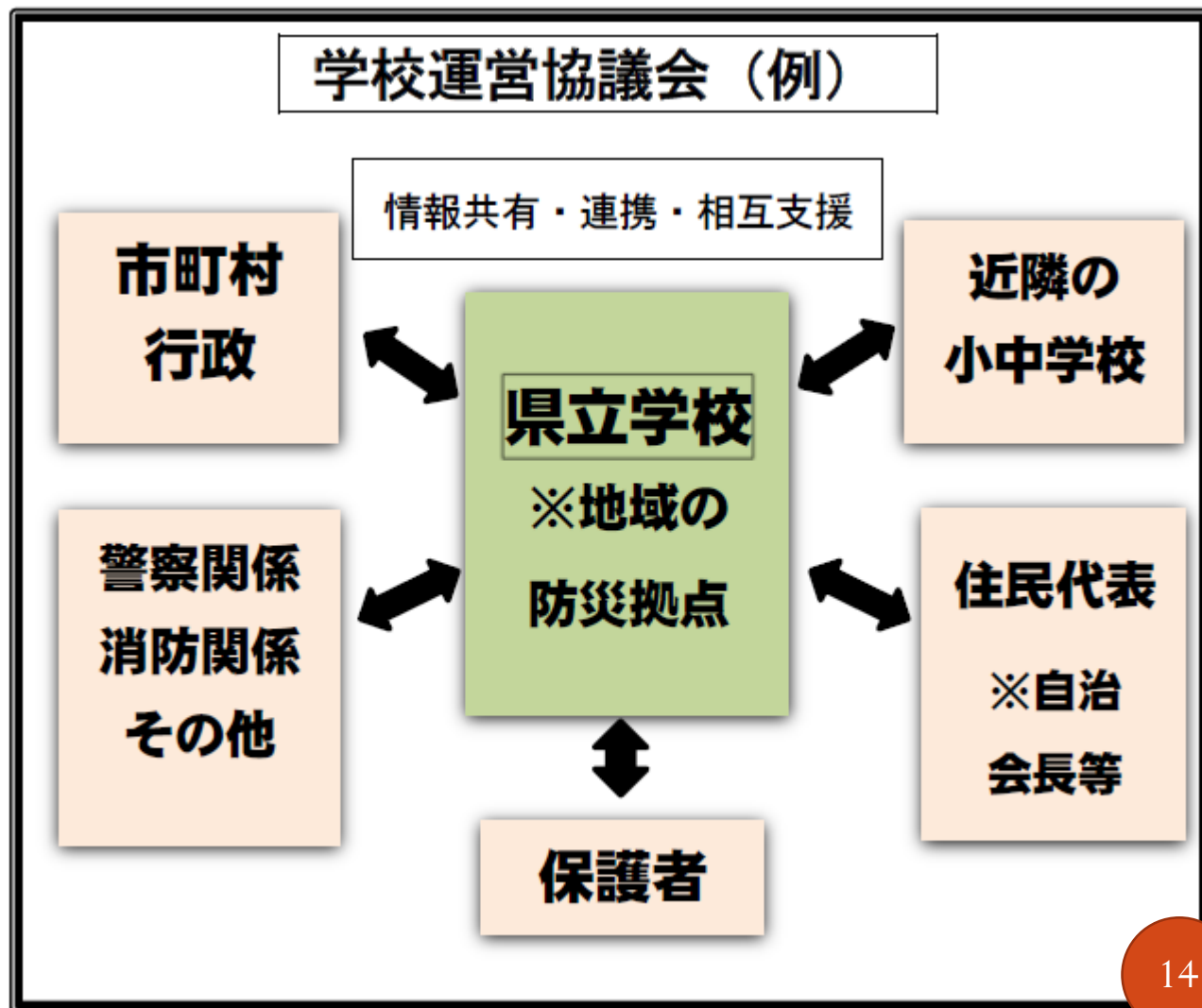
- 避難所運営等に係る体制整備（教職員の役割の明確化等）
- 地域防災計画での学校の位置づけの明確化
- 体育館の耐震性の向上
- 防災・避難所機能の強化
- 備蓄品の管理者及び管理方法確認
- コミュニティ・スクールの指定等の推進
- 地域防災組織との連携

すべての県立学校に地域防災について地域と一体となった災害時の連携体制や防災システムの構築に特化したコミュニティ・スクールを設置する。



# 防災型コミュニティ・スクール

防災型CSとは  
熊本地震を  
経験した児童  
生徒の学習意  
欲及び防災意  
識の高揚と、  
地域と一体と  
なった災害時  
の連携体制や  
防災システム  
の構築に特化  
したコミュニ  
ティ・スクール



# 平成30年度学校安全 総合支援事業について

がんばるけん!  
くまもとけん!



©2010熊本県くまモン





## 推進委員会について

有識者等



防災型コミュニティ・スクール  
学校運営協議会メンバー

### <推進委員会構成員>

熊本大学学院准教授  
熊本県立大学教授  
熊本地方気象台担当官  
日本防災士会(熊本支部)  
危機管理防災課  
体育保健課

大津町役場関係者  
地元警察・消防署  
地元医療機関・福祉施設  
代表者  
近隣住民代表者  
近隣学校代表  
保護者代表者  
各学校の管理職等  
各学校の防災主任

### 合同開催のメリット

- 共通の認識の基、事業を推進できる。
- 学校や地域の意見が反映されやすい。



## 学校安全アドバイザーの派遣

日本防災士会熊本県支部の防災士3名に学校安全アドバイザーを委嘱

推進委員会及び防災に関する行事等で指導・助言

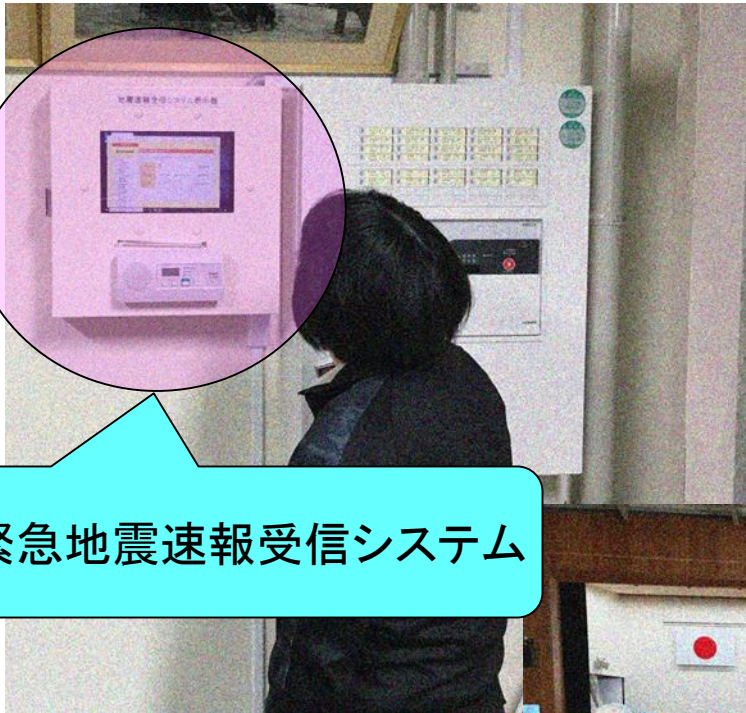
- ①学校の校内研修の講師
- ②避難訓練
- ③防災教育公開授業
- ④学校安全計画・危機管理マニュアルの見直し





# 平成30年度学校安全総合支援事業

## 緊急地震速報受信システムを用いた実践的な避難訓練



緊急地震速報受信システム



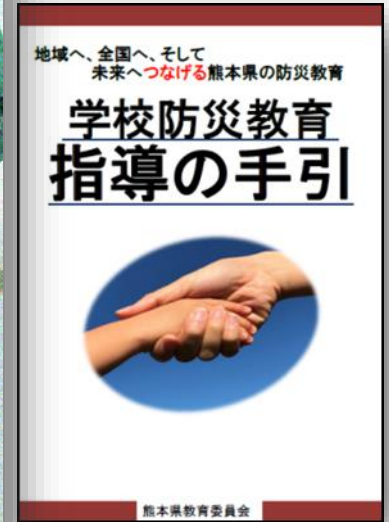
翔陽高校 大津高校  
地震及び火災避難訓練

大津支援学校  
引き渡し訓練





# 平成30年度学校安全総合支援事業



①  
ネギさん  
住所：北町  
世帯主・男／27歳



②  
ネギさん  
住所：北町  
妻／25歳



③  
ネギさん  
住所：北町  
長女／5歳  
食物アレルギー



学校防災教育指導の手引を  
活用した防災教育公開授業

## 避難所運営ラーニング(Leic) 研修会

平成30年8月21日(火)

講師：福島大学「うつくしまふくしま未来支援センター」  
本多 環 特任教授

避難所運営ラーニング(Leic)を通じて、生徒の防災意識を高めるとともに、カードに示された様々な状況に置かれている人々への対応を考える体験を通して、多角的な視点で地域を見る力を養い、安心・安全な社会づくりに貢献していこうとする意識の高揚を図る。

### <参加者>

翔陽高等学校	生徒24名	教職員6名
大津高等学校	生徒20名	教職員3名
大津支援学校	教職員6名	



## 先進地視察

7月25日(水) 尼崎小田高等学校訪問  
「絆マップ」を作成  
機能訓練及び実践的な避難訓練



7月26日(木) 防災ジュニアリーダー育成合宿  
講義「災害と向き合う」 諏訪清二 氏  
和田茂 先生

7月27日(金) 防災ジュニアリーダー育成合宿  
西脇北高等学校 ボランティア部の活動報告  
ワークショップ「建物補強で考えよう」





# 平成30年度学校安全総合支援事業

## 成果と課題(大津高校)

- 生徒数:894人(24学級) 職員数:86人
- 熊本地震時の状況
  - ・体育館や教室に被害が発生
  - ・生徒の自宅も500棟近くの一部損壊以上が発生
  - ・10日間の休校

### 成果

- 推進委員会では、有識者、住民代表者及び学校関係者等のそれぞれの立場からより具体的な意見が出され、充実した会となった。
- 校内研修等では、災害への「備え」の大切さを再認識できた。
- 学校防災マニュアルの見直しでは、学校安全アドバイザーの体験を基にしたより実践的な内容について助言をいただき、見直しの視点を明確にできた。

### 課題

- 生徒のみならず職員の危機管理意識を向上させる必要がある。そのため、震災を忘れることなく、機会を設けて研修を続けていかなければならない。
- 学校、行政及び住民の役割分担や相互協力など、より具体的な議論が今後必要になる。そのため、支援者と被支援者の立場に分かれるのではなく、共に支援し合う体制を目指していきたい。

## 生徒アンケート項目

- ①あなたは、地震発生時に、自分で判断して身の安全を守ることができますか。
- a 家や建物の中にいるとき    1 できる    2 できない    3 わからない
- b 外にいるとき    1 できる    2 できない    3 わからない
- ②あなたは、地震が起きた後に、避難する安全な場所を知っていますか。
- a 学校にいるとき    1 知っている    2 知らない    3 わからない
- b 家にいるとき    1 知っている    2 知らない    3 わからない
- ③あなたが、一人で登下校しているとき地震が起きたら、安全な場所に避難することができますか。
- 1 できる    2 できない    3 わからない
- ④あなたは、地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めていますか。
- 1 決めている    2 決めていない    3 わからない
- ⑤あなたは、地震などで避難した後に、家族との連絡の取り方を決めていますか。
- 1 決めている    2 決めていない
- ⑥あなた(あなたの家)は、地震に備えて何か準備をしていますか。
- 1 している    2 していない    3 わからない
- ⑦あなたは、地震発生後に、周りの人の安全のために何かできることがありますか。
- 1 できる    2 できない    3 わからない
- ⑧あなたは、日頃から地域の人たちとのつながりを大切にすることは、災害が発生した際に役立つと思いますか。
- 1 思う    2 思わない
- ⑨自然災害の歴史やそのメカニズムについて、理解できていますか。
- 1 できている    2 できていない
- ⑩あなたは、防災について、もっと学習したいと思いますか。
- 1 思う    2 思わない

## 生徒アンケートより抜粋

①あなたは、日頃から地域の人たちとのつながりを大切にすることは、災害が発生した際に役立つと思いますか。

- |        |         |   |                 |
|--------|---------|---|-----------------|
| 1 思う   | 事前88.8% | ⇒ | 事後97.8% (+9.0%) |
| 2 思わない | 事前11.2% | ⇒ | 事後2.2%          |

②自然災害の歴史やそのメカニズムについて、理解できていますか。

- |          |         |   |                  |
|----------|---------|---|------------------|
| 1 できている  | 事前45.5% | ⇒ | 事後72.9% (+27.4%) |
| 2 できていない | 事前54.5% | ⇒ | 事後27.1%          |

③あなたは、防災について、もっと学習したいと思いますか。

- |        |         |   |                  |
|--------|---------|---|------------------|
| 1 思う   | 事前74.0% | ⇒ | 事後87.0% (+13.0%) |
| 2 思わない | 事前26.0% | ⇒ | 事後13.0%          |

<生徒の感想>日本は、世界の中でも地震の起こりやすい地域で、日常から地震に向けた対策をしておかないといけないと思った。また、津波、大雨や土石流など、地震以外にも様々な災害が起こりうる。私は、大阪に進学する。都市部などでは、大雨の際、水がたまりやすいし排水が悪いと聞いた。また、見知らぬ土地に行くため、ハザードマップや避難経路、避難場所などをしっかりと理解し、いつ災害が起きても対応できるようにしたい。



# 平成30年度学校安全総合支援事業

## 成果と課題(翔陽高校)

### 成果

- 生徒数:864人(21学級) 職員数:101人
- 熊本地震時の状況
  - ・校舎等54カ所の設備被害
  - ・生徒の自宅も全壊5棟、半壊程度58棟
  - ・避難生活91人、通学困難95人など

○防災教育では、避難者の視点に立った学習を通して、日頃から地域に関心を持っておくことの重要性に気付くとともに、地域社会に貢献していこうとする態度を身に付けることができた。

○避難訓練では、生徒及び教職員の意識の向上が見られた。生徒は例年になく迅速かつ真剣な取り組みが見られた。

○多くの場面で、学校安全アドバイザーから専門的かつ実質的な助言があり、地震に対する安全な避難方法、適切なマニュアルの活用法を学ぶことができた。

### 課題

○避難訓練については、より実践的な避難訓練にするため時間帯を変更するなど毎回、工夫していきたい。

○学校安全アドバイザーから指摘のあったことを来年度からの防災教育に生かすため、防災に関する取組の質をさらに高め、組織的かつ効率的に取り組んでいきたい。

## 生徒アンケートより抜粋

- ①地震で避難後、家族と集合場所を決めているか。
- |          |         |   |         |         |
|----------|---------|---|---------|---------|
| 1 決めている  | 事前45.0% | ⇒ | 事後52.5% | (+7.5%) |
| 2 決めていない | 事前55.0% | ⇒ | 事後47.5% |         |
- ②地震で避難後、家族との連絡の取り方を決めているか。
- |          |         |   |         |         |
|----------|---------|---|---------|---------|
| 1 決めている  | 事前60.0% | ⇒ | 事後67.1% | (+7.1%) |
| 2 決めていない | 事前40.0% | ⇒ | 事後32.9% |         |
- ③地震に備えて何か準備をしているか。
- |         |         |   |         |          |
|---------|---------|---|---------|----------|
| 1 している  | 事前47.1% | ⇒ | 事後62.0% | (+14.9%) |
| 2 していない | 事前12.5% | ⇒ | 事後11.6% |          |
| 3 わからない | 事前40.4% | ⇒ | 事後26.4% |          |

### <生徒の感想>

○避難所運営ラーニングを実施して、運営側の大変さがよくわかった。地域の人たちのことを知らないと運営できないと思った。今後は地域との交流機会には、積極的に参加したい。

○地震の仕組みや熊本地震については、これまでに学ぶ機会があったが、学ぶことを継続しないと意味がない。今後は学んだことを生かし、発生する地震への備えをしっかりとっていききたい。

# 平成30年度学校安全総合支援事業

## 成果と課題(大津支援)

### 成果

- 児童・生徒数:161人(30学級) 職員数:89人  
小学部49人 中学部43人 高等部69人
- 熊本地震時の状況
  - ・廊下の亀裂、水道管の破裂
  - ・臨時避難所の開設:15日間(臨時休校14日間)
  - ・児童生徒48人が家屋の被害

- 防災学習を避難訓練の日程と関連付けたことで、防災学習で学んだ身を守る動きを、避難訓練で行う児童生徒の姿が見られた。
- 児童生徒を保護者に引き渡すまで全職員でシミュレーションできたことは本校の防災体制の強化につながった。
- 職員向けの研修後に、災害時の対応や熊本地震時の経験談等を職員同士で話題にする場面が見られ、職員の防災意識の向上につながった。

### 課題

- 障がいに応じた授業内容の工夫改善をしていきたい。
- 引き渡し訓練では、避難所運営や誘導等、同時進行で行う可能性のある動きや職員の体制作りは、確認が必要であると感じた。危機管理マニュアルの見直しに活かしたい。

## 児童生徒の変容について

○小学部では、避難訓練で放送が流れたときに、頭を守ろうとしたりする自助の動きが、自発的に素早くできるようになった。

○高等部の避難訓練の事前学習で「おはしも」の確認を丁寧に行ったことで、避難訓練後に、生徒から教師に「『おはしも』を守って避難ができました。」と、自分から報告する姿が見られた。(学んだことを、実際の行動に生かせた)

○高等部で、非常用持ち出し袋の学習をした際に、最初はゲーム機等を優先的に持ち出すと言っていた生徒が、水や食料などの必要性に気づき、優先順位を水や食料に変更する姿が見られた。

# 熊本県学校支援チーム について

がんばるけん!  
くまもとけん!



©2010熊本県くまモン



# 熊本県学校支援チーム発足

平成30年6月4日(月)



○平成29年度養成人数 10名

○平成30年度養成人数 30名

高校教育課： 4名(県立中・高等学校教職員)

義務教育課： 10名(市町村立小・中・義務教育・特別支援学校教職員)

特別支援教育課： 1名(県立特別支援学校教職員)

体育保健課： 1名(体育保健課職員)

教育センター： 14名(教育センター職員)



○平成30年度 熊本県学校支援チーム隊員として**任命者数40名**



○2020年度までに80名体制とする予定



# 熊本県学校支援チーム設置運営要項抜粋

## (目的)

第1条 平成28年熊本地震の経験・教訓を活かして被災地の学校教育の早期復旧を支援するため、県内外において大規模な災害が発生した場合に、防災や災害時の学校運営についての専門的知識と実践的対応能力を備えた教職員で構成する「熊本県学校支援チーム」の設置及び派遣等に関し、必要な事項を定める。

## (研修)

第4条 教育センターは、指導力及び技術力向上のため、隊員研修を実施する。隊員は、教育センターが実施する隊員研修を、毎年度受講するよう努めるものとする。



# 県内外で大規模災害発生

被災地の情報収集  
(教育政策課)

## 教育長

### 【派遣要件】

教育長は、次に掲げる事態が推測される場合、速やかに、支援チームの派遣を決定する。なお、次の場合のほか、被災地の状況等を踏まえ、教育長が総合的に判断して、支援チームを派遣することができる。

- 1 震度6弱以上の地震が観測された場合で、甚大な被害が推測される場合  
(九州地方知事会情報連絡員発動基準)
- 2 上記1のほか、災害により複数の市町村で学校が避難所となることが推測される場合

### ①支援チーム派遣手続 (1チーム3名程度)

- ◆教育長は隊員の属する所属長に派遣を要請
- ◆所属長が派遣を認めたものの中から教育長が派遣する隊員を決定

### 【支援チームからの報告等】

- 支援チームは、必要な都度、現地の被災状況や活動内容等について教育長に報告
- 教育長は、当該報告やその他の情報を総合的に判断し、後続隊の支援規模や派遣期間等について決定
- 被災地の学校再開に一定の目途がたったと判断される場合は、教育長は支援チームの撤収を指示

被災地

②報告

③撤収指示

## 支援チーム

### ○被災地での活動内容 (活動期間は1週間程度)

- ア 学校の被災状況等の情報収集
- イ 学校再開に向けた体制づくりへの助言
- ウ 短縮授業等の応急教育計画の作成や給食再開のための計画立案等教育活動の早期再開への助言
- エ 児童生徒の心のケアに対応する教職員への対処方法等の助言
- オ 教職員への心のケアに対する助言
- カ 学校における避難所の開設初期段階での運営に対する助言

# 平成30年度熊本県学校支援チーム活動状況

## ①大阪府北部を震源とする地震

派遣期間：平成30年6月19日  
～平成30年6月23日 4名

## ②7月豪雨

派遣先：広島県

派遣期間

第1次派遣：平成30年7月11日(水)～13日(金) 2名

第2次派遣：平成30年7月16日(月)～20日(金) 3名

## ③平成30年北海道胆振東部地震

派遣期間：平成30年9月6日(木)～9日(日)

教育政策課による情報収集のみ



# 熊本県学校支援チームの研修

隊員候補者・・・教育センターが実施する研修(初級、中級、上級)を受講  
必要と認める者・・・兵庫県教育委員会が行う防災関連の研修を受講  
隊員として任命された者・・・毎年更新研修を受講

## 初級編

《研修1》防災教育と心のケアハンドブック等の活用【講義・演習】  
《研修2》防災訓練の実施方法(自主防災組織の役割も含む)【演習】  
《研修3》心のケアの基礎知識【講義】  
《研修4》防災体制の概要と学校に避難所が開設された時の運営方法【講義・演習】

## 中級編

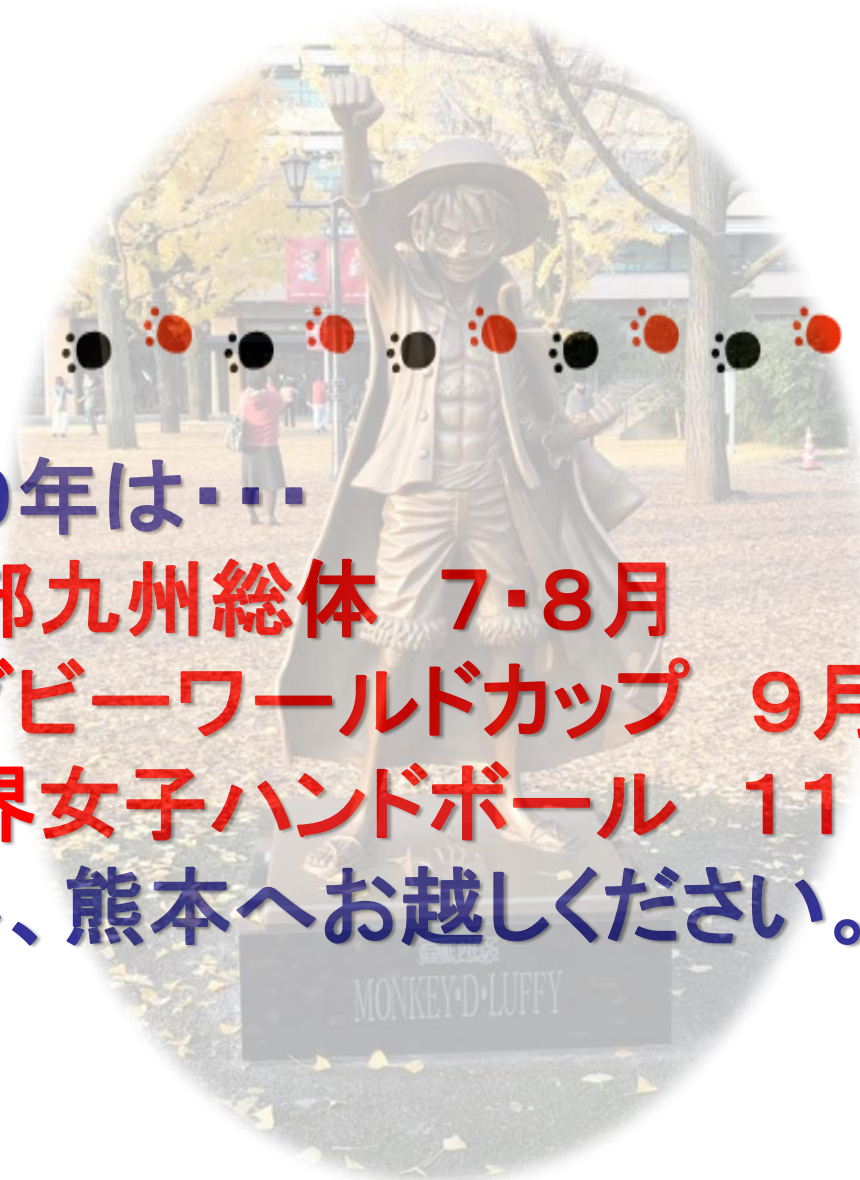
《研修1》熊本の防災体制の実際【講義】  
《研修2》防災教育教材の開発及び活用について①【演習】  
《研修2》防災教育教材の開発及び活用について②【演習】  
《研修3》災害ボランティア基礎知識【講義】  
《研修4》心のケア授業【講義・演習】

## 上級編

《研修1》平成28年熊本地震後の給食等食の支援方法【講義・演習】  
《研修2》心のケア発展知識【講義・演習】  
《研修3》熊本の防災態勢の実際【講義】



がんばるけん!  
くまもとけん!



2019年は...

○南部九州総体 7・8月

○ラグビーワールドカップ 9月～11月

○世界女子ハンドボール 11・12月

ぜひ、熊本へお越してください。

